神戸新聞 2024年10月09日 水曜日 面名 夕一社 夕４ 7ページ

ＮＩＥワークシート
中～高校

不漁一転、サンマ出足好調①

9月末、6年ぶり1万トン超

近年不漁続きのサンマの漁獲が、今年はこれまでのところ好調だ。9月末までの水揚げ量は6年ぶりに1万トンを超え、食卓に上がりやすい価格に。専門家は、群れが例年より日本寄りの海域に分布していることなどが要因とみる一方、漁業関係者は「自然相手で明確な理由や先行きは見通せない」と話す。

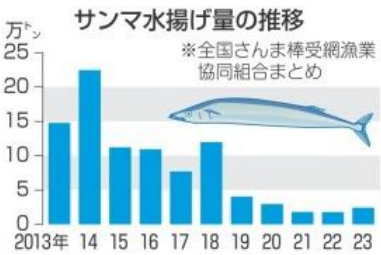
北海道根室市の花咲港で水揚げされたサンマ＝8月

10月2日未明、水揚げ全国トップの花咲港（北海道根室市）に戻った第88幸福丸の魚槽から、大量のサンマが数十台のトラックに次々と移し替えられ、隣接する市場へ運ばれた。「トラックが足りないんじゃないか」と冗談も飛び交った。

船を運航する地元水産会社の庄林和貴社長(59)は「以前の豊漁に戻ったとは言えないが、昨年と比べて倍は取れている」と話し、船頭の男性は「このまま漁獲が安定してほしい」と願った。

日本寄りに群れ、値段もお手頃②

「このまま安定を」願う漁業者



全国さんま棒受網漁業協同組合によると、A年に約22万5千トンの水揚げを記録したが、22年には約1万8千トンまで落ち込んだ。魚体も小ぶりなものが多く、23年の初水揚げ日には根室市内の市場で1キロ約14万円となり過去最高値を更新。庶民の懐には厳しい価格が続いていた。

漁は8月から始まり、今年は9月末までに2018年以来1万トンを超え、約1万2千トンの水揚げとなっている。8月の初競りでは1キロ724円だった。

サンマ長期漁海況予報を実施した国立研究開発法人水産研究・教育機構によると、例年は船の大きさでずらしていた出漁日を統一し、10日ほど早く大型船も出たため、船の数に比例して漁獲も増えた。

さらに群れが日本寄りの海域に多くいることで、水揚げするために漁船が港へ戻る時間や距離が短くなり、効率よく漁ができていると指摘。他にも海水温の変化や餌の分布状況など、さまざまな要因が考えられるものの②要素が多すぎて豊漁の理由は絞りきれない」という。

一方、沖合の分布は昨年よりも少ないとして、「今後の水揚げは昨年よりも少なく、総量は例年並みの低水準に変わりない」と予想した。根室市の漁業関係者は「サンマの豊漁、不漁は大きな周期で変化するとも聞く。目先の取れ高だけではB喜Bー憂できない。たくさん取れて、漁業者の利益になれば」と話した。

上の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 空欄Aに入る年をグラフから読み取って書きましょう。

2 傍線部①の価格は今年の価格に比べ、何倍でしたか。小数点以下を四捨五入して答えましょう。

倍

3 傍線部②のように、さんま豊漁の理由はたくさんありますが、そのうち本文に書いてある理由を3つ（うち2つは50字以上、1つは15字以内）を抜き出し、最初の3文字を書きましょう。

4 空欄Bには同じ漢字が入り、「○喜○憂」の四字熟語になります。その漢字を書きましょう

NIEワークシートのこたえ（2024年10月10日公開）

◆ワークシート「さんまの漁獲量(社会・国語)」
2024.10.9日付　夕刊　７面　解答

１　２０１４

２　１９３ 倍

３　例年は　群れが　海水温　順不同

４　一　(一喜一憂)